

『学会開催報告』

第32回日本臨床細胞学会
北陸支部連合会学術集会the 32th Annual Local Meeting (The
Hokuriku Branch) of The Japanese Society
of Clinical Cytology金沢大学医薬保健学域医学系研究科分子細胞病理学
大井章史

平成27年9月6日(日)、金沢大学附属病院宝ホールにおいて第32回日本臨床細胞学会北陸支部連合会学術集会を開催させて頂きました。本連合会は、北陸地方における臨床細胞学の進歩と普及を図ることを目的としています。細胞診専門医と細胞検査士を中心とした約300名の会員からなり、本学術集会は年に1度開催されています。当日はあいにくの雨模様でしたが、例年以上の参加者となりました。

特別講演では、腎尿路系病理組織・細胞診の分野で第一人者である、都築豊徳先生(名古屋第二赤十字病院病理診断科部長)から「尿細胞診の統一報告様式と臨床への応用」と題したご講演を賜りました。このたび改定、策定される尿細胞診のパリシステムと、我が国の統一尿細胞診報告形式について、その主な解離点と原因について、組織、細胞像を交えて、わかりやすくご教授くださいました。この病態・細胞像を理解することで、尿細胞診の精度がさらに向上することが期待されます。

また、「FISHを用いた膀胱癌の癌遺伝子増幅の検索」と題して、私と当教室の田尻亮輔先生が発表の機会をいただきました。

一般演題のセッションでは、今村好章先生(福井大学附属病院病理診断科/病理部)、寺畑信太郎先生(市立砺波総合病院病理診断科)、川島篤弘先生(国立病院機構金沢医療センター臨床検査科)の座長のもと、9題の演題が発表されました。口腔外科領域では、石橋浩晃先生(金沢医科大学顎口腔外科学講座)が、「口腔細胞診を用いた遠隔診断・遠隔治療」と題した研究結果を発表されました。今後、過疎地を含む地域医療における普及が期待されるシステムであり、大変興味深く拝聴しました。眼科領域からは堀隆先生(富山大学附属病院病理部病理診断科)が「富山大学における眼球硝子体病理検査の改良と成績」をご発表されました。セルブロック組織診を併用した悪性リンパ腫の診断に関して勉強させて頂きました。婦人科領域からは中屋佳子先生(福井総合病院検査課)が「LSIL標本の再検討」と題してご報告されました。近年普及したLBC法の有効性や問題点について述べられました。症例報告として、脱分化をきたした甲状腺癌(前川秀樹先生、福井大学医学部附属病院)、慢性硬化性唾液腺炎(小梶恵利先生、富山大学附属病院)、肋骨原発軟骨肉腫(天澤瑤子先生、国立病院機構金沢医療センター)、直腸GIST(福田弘幸先生、市立砺波総合病院)、糞線虫(小林雅子先生、金沢市立病院)、そしてBKウイルス感染症(宮

下麻代先生、金沢大学附属病院)が発表されました。希少例も多く、細胞像の写真を提示しながら、診断上の留意点や鑑別点など詳しく解説頂きました。若い細胞検査士のみならず、経験豊富な細胞検査士や細胞診専門医にとっても、知見を深める有意義な発表ばかりでした。

スライドセミナーでは、車谷宏先生(石川県立中央病院病理診断科)座長のもと、3題の細胞診症例が出題されました。1題目は、海崎泰治先生(福井県立病院病理診断科)が「腭原発のsolitary fibrous tumor」を出題されました。腭原発としては稀であり、最近検査件数が増加傾向にある腭EUS-FNA法にて採取された検体を用いた、疾患鑑別のお手本となるご提示でした。2題目は、池田博子先生(金沢大学医学部附属病院病理部)が「甲状腺髄様癌」を提示されました。細胞像からは、紡錘形を呈していたため、腎部の軟部腫瘍の転移との鑑別が問題となりました。美しい写真とともに解説を頂きました。3題目は林伸一先生(富山大学医学薬学研究部病理診断学講座)が「子宮頸部扁平上皮癌の腹腔内播種」を出題されました。疾患が鑑別疾患から漏れた場合の診断の難しさをわかりやすく教えて頂きました。指定回答者として大西博人先生(石川県立中央病院)、清水雅彦先生(富山県立中央病院)、針谷朋美先生(福井県立病院)からコメントを頂きました。

最後になりましたが、当日は悪天候にもかかわらずご来場をいただきました会員の方々にお礼を申し上げますとともに、本学術集会をご支援くださいました金沢大学十全医学会の皆様へ深く感謝いたします。また、学会開催にあたり快く座長や演題、出題をお引き受け頂きました諸先生方、金沢大学附属病院病理部、金沢大学分子細胞病理学のスタッフの方々には、心より感謝申し上げます。

